マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第2部 根拠を見つける

U03　文章の骨組み

（対比・具体と抽象・譲歩・キーワード）

ベーシック

対象：小学5年・偏差値55〜60

1. 要点（ルール）
2. 例題　説明文「ゆっくり読む」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　文章の骨組みのルール

R03-1　対比に＋と－をつける

二つのものをくらべている所を見つけ、筆者がよいと思っている方に＋、そうでない方に－をつける。自分の好みではなく、筆者の書き方で決める。

R03-2　＋が強調されるのは「多くの場合」

対比では、筆者の言いたいことが＋の側に書かれていることが多い。でも、いつもではない（傾向）。両方のよさを認めて「使い分けよう」と言う文章もある。最後の段落まで読んで、筆者がどちらに重みを置いているかを確かめる。

R03-3　たしかに～。しかし～

「たしかに」「もちろん」の後ろは、多くの人の考え（筆者がいったん認めること）。「しかし」「けれども」の後ろに、筆者の言いたいことがくる。「むしろ」の後ろも同じ。前の部分も、くらべる相手（－の側）として答えに使うことがあるので、しっかり読む。

R03-4　具体と抽象

体験や例（具体）は、筆者の言いたいこと（まとめ＝抽象）を伝えるためにある。答えには、例の前後にあるまとめの言葉を使う。例をそのまま書かない。

R03-5　キーワード

くり返し出てくる言葉は、筆者が大切にしている言葉。言いかえ（同じ意味の別の言い方）も同じキーワードとして数える。回数だけで決めず、＋の意味で使われているかを確かめる。

R03-6　骨組みメモ

段落の横に「＋」「－」「たしかに」「例」「まとめ」と書いてから問題を解く。答えの材料は、まとめと＋の段落から集め、何段落かを要素表に書く。

ルールの番号（R03-〇）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　説明文「ゆっくり読む」

① 「一年で百さつ読みました。」読書の記録を発表すると、たくさん読んだ人ほど、みんなから「すごいね」と言われる。本は、速く、たくさん読むほどよい、と考えている人は多い。

② たしかに、速く読めば、たくさんの本に出会える。いろいろな話を知ることもできる。しかし、ゆっくり読むことでしか見えないものがある。

③ わたしは小学生のころ、一さつの絵本を、一か月かけて読んだことがある。毎ばん同じページを開き、絵のすみに小さなネコがかくれているのを見つけたり、「どうして主人公は、ここで道を引き返したのだろう」と考えたりした。読み終わったとき、その絵本は、まるで自分で書いた本のように思えた。

④ 速く読むとき、わたしたちは「次にどうなるか」を追いかけている。目は、あらすじだけを拾っていく。それに対して、ゆっくり読むとき、わたしたちは一つ一つの言葉の前で立ち止まる。立ち止まると、「なぜだろう」「わたしならどうするだろう」という問いが生まれ、自分で考える時間ができる。

⑤ 本を読むことは、話の中身を知ることだけではない。言葉の前で立ち止まり、自分で考えることこそ、読書のいちばんの楽しみなのである。たまには、時計を見ずに、一さつの本とゆっくりつきあってみてはどうだろうか。

問　――線部「ゆっくり読むことでしか見えないものがある」とありますが、筆者は、ゆっくり読むとどのようなことができると考えていますか。速く読むときとのちがいがわかるように、五十字以内で書きなさい。

解き方

1. **手順1　骨組みメモをつける**
   ①多くの人の考え（速く・たくさん）／②「たしかに～。しかし～」／③わたしの体験（例）／④速く読む（－）とゆっくり読む（＋）の対比／⑤まとめ（「こそ」）。

2. **手順2　「しかし」の後ろ**
   ②段落の「たしかに」の後ろ（たくさんの本に出会える）は、筆者がいったん認めたこと。筆者の言いたいことは「しかし」の後ろ＝――線部（R03-3）。

3. **手順3　＋と－を書き出す**
   ④段落：速く読む（－）＝次にどうなるかを追い、あらすじだけを拾う。ゆっくり読む（＋）＝言葉の前で立ち止まり、自分で考える時間ができる。

4. **手順4　例は書かない**
   ③段落のネコの話は例（具体）。答えには④⑤段落のまとめ（抽象）の言葉を使う（R03-4）。くり返し出てくる「立ち止まる」がキーワード（R03-5）。

5. 手順5　文にする

「速く読むと～だが、ゆっくり読むと～。」の形で、－の側を短く、＋の側を中心に書く。

要素表（材料を集める）

要素	中身	根拠	入れる？
筆者の言いたいこと（＋）	言葉の前で立ち止まり、自分で考える時間ができる	④⑤	◎ 入れる
くらべる相手（－）	速く読むと、次にどうなるか（あらすじ）だけを追う	④	○ 入れる
たしかに（認めたこと）	速く読めば、たくさんの本に出会える	②	△ 字数があまれば
例	一か月かけて絵本を読み、ネコを見つけた	③	× そのまま書かない

模範解答

模範解答　50字／50字以内

速く読むとあらすじを追うだけになるが、ゆっくり読むと言葉の前で立ち止まり、自分で考える時間ができる。

採点表

採点表（要素ごとの配点）	点
＋の側：言葉の前で立ち止まり、自分で考える（問いが生まれる）	5点
－の側：速く読むと、あらすじ（次にどうなるか）だけを追う	3点
例（ネコ・絵本）をそのまま書かず、まとめの言葉で書いている	1点
聞かれたこと（何ができるか）に合わせて文を終えている	1点
合計	**10点**

減点の型（こう書くと）	何点になる？ なぜ？
「絵のすみのネコを見つけることができる。」	例のまま。筆者の言いたいこと（まとめ）になっていない。10点中1点。
「たくさんの本に出会うことができる。」	「たしかに」の後ろ＝筆者がいったん認めたことで、ゆっくり読むことの話ではない。0点。
「ゆっくり読むと、自分で考えられる。」	速く読むときとのちがい（－の側）が無い。3点引いて7点。
五十一字以上	字数オーバー。採点されないことが多い（0点）。

練習1　説明文「「はてな」を育てる」

① わからないことがあると、わたしたちはすぐにタブレットで調べる。数秒で答えが出てくるので、とても便利だ。

② けれども、答えがすぐに出てくると、「はてな」もすぐに消えてしまう。「はてな」とは、「どうしてだろう」「ふしぎだな」と思う心のことだ。

③ 夏休みに、弟が庭でアリの行列を見つけた。「アリは、どうしてみんな同じ道を通るの？」と聞かれたので、わたしは、調べる前に二人で考えてみることにした。においがあるのかもしれない。前のアリを見ているのかもしれない。砂糖を置いて、一時間も観察した。答えがわかったのは次の日、図書館の本を読んだときだった。弟は「やっぱり、においだったんだ」と、大よろこびした。

④ すぐに答えを知ると、「はてな」はそこで終わる。しかし、「はてな」を少しのあいだ持ちつづけると、自分で予想し、たしかめようとする力が育つ。そうして見つけた答えは、調べて知った答えよりも、ずっと深く心にのこる。

⑤ 調べる前に、「はてな」を大切に育ててみよう。

問　――線部「『はてな』を大切に育ててみよう」とありますが、筆者は、「はてな」を持ちつづけるとどのようなよいことがあると考えていますか。文章中でくり返し使われている言葉を使って、六十字以内で書きなさい。

① 要素表を書こう

要素（＋側・－側・まとめ・例）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										60

60字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　説明文「二つの地図」

① はじめて行く場所へ出かけるとき、今はスマートフォンの地図を使う人が多い。行き先を入れると、道順を声で教えてくれる。自分が今どこにいるかも、すぐにわかる。

② 一方、紙の地図では、自分で今いる場所をさがし、道順を考えなければならない。めんどうだと感じる人も多いだろう。けれども紙の地図には、町全体を一度に見わたせるというよさがある。駅や川や公園がどんな位置にあるのかがわかるので、道をまちがえても、自分で別の道を考えることができる。

③ 先日、わたしは家族で旅行に出かけた。駅から旅館までは、スマートフォンの地図のおかげで、まよわずに着けた。次の日、町を歩いて回るときには、紙の地図を広げて、「川ぞいを歩いて、帰りは山の上の公園を通ろう」と、家族で道を決めた。

④ スマートフォンの地図は、目的地に早く、まちがいなく着きたいときに役に立つ。紙の地図は、町全体をつかんで、自分で道を考えたいときに役に立つ。

⑤ どちらがすぐれているかを決める必要はない。大切なのは、それぞれのよさを知り、目的に合わせて使い分けることなのである。

問　――線部「どちらがすぐれているかを決める必要はない」とありますが、筆者は、二つの地図をどのように使えばよいと考えていますか。五十字以内で書きなさい。

① 要素表を書こう

要素（＋側・－側・まとめ・例）	中身	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										

50字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　説明文「「はてな」を育てる」

解き方

1. **手順1　キーワードをさがす**
   いちばん多く出てくる言葉は「はてな」(R03-5)。②段落に「『はてな』とは～心のことだ」という言いかえ(意味)がある。

2. **手順2　「便利」はわな**
   ①段落の「すぐに調べられて便利」は、②段落の「けれども」の前＝筆者がいったん認めたこと。よいことの答えにはならない(R03-3)。

3. **手順3　まとめの段落**
   ③段落のアリの話は例。④段落に「しかし、『はてな』を～持ちつづけると」のまとめがある＝ここが答えの材料(R03-4)。

4. **手順4　文にする**
   「はてな」の意味(どうしてだろうと思う心)を短く入れ、④段落の二つのよいこと(予想してたしかめる力が育つ・答えが深く心にのこる)を書く。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
よいこと1(＋)	自分で予想し、たしかめようとする力が育つ	④	◎ 入れる
よいこと2(＋)	見つけた答えが、ずっと深く心にのこる	④	○ 入れる
キーワードの意味	「はてな」＝どうしてだろうと思う心	②	○ 短く入れる
たしかに(認めたこと)	すぐに調べられて便利	①	× 入れない
例	アリの行列・砂糖を置いて観察	③	× そのまま書かない

模範解答

模範解答　56字／60字以内

どうしてだろうと思う「はてな」を持ちつづけると、自分で予想してたしかめる力が育ち、見つけた答えが深く心にのこる。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
よいこと1:自分で予想し、たしかめようとする力が育つ	5点
よいこと2:見つけた答えが深く心にのこる	3点
キーワード「はてな」を使っている(意味もわかる)	1点
例(アリ)をそのまま書いていない・文の終わりが問いに合う	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「すぐに答えが出てきて便利だ。」	「けれども」の前＝筆者がいったん認めたこと。0点。
「アリがにおいで同じ道を通るとわかる。」	例のまま。筆者の言いたいことになっていない。0点。
「調べる力が育つ。」	本文は「調べる」ではなく「予想し、たしかめる」。言葉がちがうと別の意味になる。5点中2点。

練習2　説明文「二つの地図」

解き方

1. **手順1　＋と−をつけてみる**
   ①段落のスマートフォンの地図に＋。②段落の紙の地図は、はじめ「めんどう」(−)だが、「けれども」の後ろで＋になる。
2. **手順2　わなに気づく**
   「けれども」の後ろが紙の地図だから「紙の地図のほうがよい」と決めると、まちがい。④段落では、二つの地図の両方に「役に立つ」(＋)がついている。
3. **手順3　最後の段落で確かめる**
   ⑤段落「大切なのは〜使い分けること」。＋が片方だけにつくのは多くの場合の話(傾向)で、この文章は両方を認めて使い分けをすすめる例外(R03-2)。
4. **手順4　文にする**
   ④段落の、それぞれが役に立つ場面を短くまとめ、「目的に合わせて使い分ける」で終える。③段落の旅行の話は例なので書かない。

要素表

要素	中身	根拠	入れる？
筆者の言いたいこと	目的に合わせて使い分ける	⑤	◎ 入れる
スマホの地図(＋)	早く、まちがいなく着きたいときに役に立つ	①④	○ 入れる
紙の地図(＋)	町全体をつかみ、自分で道を考えたいときに役に立つ	②④	○ 入れる
例	家族旅行で、駅から旅館・町歩き	③	× そのまま書かない
読みちがい	紙の地図のほうがすぐれている	なし	× 入れない

模範解答

模範解答　49字／50字以内

早く着きたいときはスマートフォン、町全体をつかみ道を考えたいときは紙と、目的に合わせて使い分ける。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
目的に合わせて使い分ける	5点
二つの地図が、それぞれどんなときに役に立つか	3点
どちらか一方だけをすぐれているとしていない	1点
旅行の例をそのまま書いていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「紙の地図のほうが、自分で道を考えられるのでよい。」	片方だけに＋をつけている。筆者の考え(使い分け)と食いちがうので、5点の要素が入らない。10点中2点。
「旅館まではスマートフォン、町歩きは紙の地図を使う。」	例のまま。どんな目的のときかが書いていない。10点中3点。
「それぞれのよさを知る。」	使い方(使い分ける)まで書いていない。5点中2点。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U03 文章の骨組み（ベーシック）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます